

JAPAN HERITAGE

日本遺産

鎮守府

横須賀・呉・佐世保・舞鶴

（日本近代化の躍動を体感できるまち）



日本遺産魅力発信推進事業

日本遺産（Japan Heritage）とは 地域の歴史的の魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定する制度



発行：旧軍港市日本遺産活用推進協議会
<http://www.kyugun.jp/>

2017年3月発行



横須賀

YOKOSUKA



佐世保

SASEBO

鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴

～日本近代化の躍動を体感できるまち～



JAPAN HERITAGE
日本遺産

Contents

旧軍港四市をつなぐストーリー	4	長崎県 佐世保	26
神奈川県 横須賀	6	コラム3 4つの鎮守府の特徴と建造された艦艇	33
コラム1 鎮守府から始まった近代的なインフラ整備	13	京都府 舞鶴	36
広島県 呉	16	コラム4 海軍ゆかりの食	43
コラム2 鎮守府にまつわる日本一・日本初	23	旧軍港四市関連年表	46

穏やかな海と小高い山々に囲まれた美しい港まち、横須賀、呉、佐世保、舞鶴。

明治期に、日本の海防力強化のため鎮守府が設置された4つのまちから、

日本近代化のストーリーが幕を開けました。

歴史を感じる港湾、青い海に浮かぶ艦船、堂々たる赤れんが倉庫群――。

鎮守府とともに発展した4つのまちには、先人が築いた壮大な近代化遺産と、

新時代の活気に満ちた往時の面影を残す風景が広がります。

歴史の風が吹く鎮守府のまちへ、日本近代化の躍動を体感する旅に出かけましょう。



呉

KURE



舞鶴

MAIZURU



旧軍港四市をつなぐストーリー

鎮守府開庁

—四市の地勢と鎮守府の役割—

明治政府が近代国家を建設するために掲げたスローガンの一つ「富国強兵」、その一翼を担ったのが海軍です。明治政府は、国を守るため西欧列強と対等に渡り合う必要があると考え、艦艇の配備を進めるとともに、明治17(1884)年に横須賀、同22(1889)年に呉と佐世保、同34(1901)年に舞鶴に鎮守府を開庁しました。

鎮守府とは、軍港に置かれた海軍の本拠地のことで、島国日本の周辺海域を分割して防備し、海軍工廠(艦艇の建造・修理、兵器の製造などを行う工場)や海軍病院、軍港水道など、多くの施設の運営・監督を行いました。

4つの軍港は、急峻な山に囲まれ、外敵の侵入を拒む湾口、艦艇の航行や停泊が自在にできる湾内、水深の深い穏やかな入江など、厳しい地勢条件を満たしていることから選定されました。



旧佐世保無線電信所(針尾送信所)施設(佐世保市)

躍動の時代

—近代日本の技術を結集、そして発展—

鎮守府には常に最先端の工業技術や設備が投入されましたが、その技術を吸収し、広く伝え、次の世代へと受け継ぐ力が必要でした。こうした技術力を高める姿勢は、横須賀海軍工廠の前身となる横須賀製鉄所にそのルーツを見ることができます。西欧から最新の造船機器を導入し、鉄製部品から建築用れんがに至るまで必要なものは全て同製鉄所で生産する体制を短期間に整えるとともに、技術教育学校で技術力の向上を図りました。

横須賀で培われた技術は呉へ、呉から佐世保、舞鶴へ、さらには民間企業へと移転を繰り返す中で飛躍的な発展を遂げるとともに、呉における技術養成所などの人材育成の充実にもつながっていきます。近代造船技術は、横須賀での国内初の軍艦建造からわずか60年余りで、呉での世界最大の戦艦「大和」(65,000トン)の建造に至り、その集大成を迎えます。



スチームハンマー 1865年オランダ製3トン門型(横須賀市)

また、明治後期にはれんが造りに代わる最新の技術としてコンクリート技術も積極的に導入され、当時日本最大を誇った佐世保の針尾送信所(高さ136mの塔3基)は、その技術の到達点と言えます。

農漁村から近代都市へ

—軍港都市の形成と市民文化の繁栄—

四市はもともと半農半漁の寒村でしたが、急速かつ計画的に軍港都市づくりが進められた点にも、大きな特徴と独自性があります。

中でも四市の水道が軍港水道として発達し、その後、市民に供給された歴史は特筆されます。各市における壮大な規模の水道施設の建設は、艦艇への給水や工業用水としてどれほど水が重要であったかを証明しています。

鎮守府開庁以後、急激な人口増加も四市共通の特徴で、呉では昭和18(1943)年に40万人を超えるほどでした。こうした水道や鉄道、基盤目状の市街地の形成など都市基盤の整備は、市民の生活を支え、軍港都市をつくっていきました。



舞鶴赤れんがパーク(舞鶴市)

また、鎮守府設置がまちにもたらしたものは、海軍由来の食文化にも見ることができます。カレーや肉じゃがなどは、海軍が洋食を日本人の口に馴染むように改良したものでした。

四市の「いま」

—まちに息づく近代化遺産—

近代日本の海防の要として激動の時代を共に歩んだ四市は、第二次世界大戦後、旧軍用財産の活用により平和産業港湾都市へと生まれ変わりました。鎮守府開庁から100年以上が経過した現在、艦艇こそ現代のものに変わりましたが、港のドックや埠頭、林立するクレーン、立ち並ぶれんが倉庫など、軍港を中心として発展した四市特有の景観は近代化遺産としてその歴史を伝えています。

軍港そして鎮守府が置かれたまちの歴史を共有し体感できるのは、日本の中でこの四市だけです。日本の近代化に向けて躍動した往時の姿を残す旧軍港四市は、どこか懐しくも逞しく、今も訪れる人々を惹きつけてやみません。



本庄水源堰堤水道施設(呉市)

横須賀

-Yokosuka-



神奈川県の三浦半島中央部に位置する横須賀市は、三方を海に面した温暖な気候と、緑豊かな自然を有する国際的な都市。慶応元(1865)年、日本初の造船所にして近代的な総合工場「横須賀製鉄所」が建設され、日本の近代化はここから始まりました。それから約150年、海軍のまち横須賀は今も独自の文化を発展させ続けています。

海上自衛隊横須賀地方総監部 ^{たどだい}田戸台分庁舎 (旧横須賀鎮守府司令長官官舎)

大正2(1913)年に建造された横須賀鎮守府司令長官の官舎。東京湾を一望できる丘の上に建つ和洋折衷様式の瀟洒な建物。日本人初のイギリス公認建築士・櫻井小太郎の設計による当時の建築デザイン性の高さを示す建物で、終戦まで31人の歴代司令長官、戦後は9人の在日米海軍司令官などが居住。現在は海上自衛隊横須賀地方総監部が管理しています。



^{へみ}逸見波止場衛門

明治末期から大正初期にかけて建造されたと推定される旧横須賀軍港逸見門の衛兵詰所。左右2棟あり、それぞれ「逸見上陸場」「軍港逸見門」と表示されています。高さは約4m、屋根は銅板ぶきドーム型、本体は八角形の鉄筋コンクリート造り、外壁はタイル張りです。当時の珍しい建築物の面影があり、建造された頃の姿のまま保存されています。



スチームハンマー (旧横須賀製鉄所設置) 1865年オランダ製

※国指定重要文化財

慶応2(1866)年、横須賀製鉄所の創設時にオランダから輸入された蒸気の圧力で鍛造・加工する艦艇建造や修理のための鍛造機械。国内に現存する最も古いものの一つで近代造船の第一歩を記す貴重な文化遺産です。3トン門型は平成8(1996)年まで約130年稼働していました。

「ヨコスカ製鉄所」^{せいてつ}「ヨコスカ造船所」^{ぞうせん}刻印れんが

横須賀製鉄所の創設時に所内で生産された国産最古級の赤れんが。フランスの規格による建築用れんがで、当時の横須賀には木骨れんが造りの造船関連施設が立ち並んでいました。



ヨコスカ製鉄所



ヨコスカ造船所



1～3号ドック



5号ドック



6号ドック

米海軍横須賀基地ドライドック1号～6号 (旧横須賀製鉄所・造船所・海軍工廠第一～第六号船渠)

明治4(1871)年に完成した1号ドック(全長134.5m)は、今も現役の日本最古のドライドック(艦船の修理施設)。昭和期に建造された6号ドックは、当時日本最大の全長337mで、戦艦「大和」型三番艦「信濃」も建造されました。石造りドック(1～3号)からコンクリート及び石造りドック(4号・5号)、コンクリート造りドック(6号)への技術の推移やドックの大型化=艦艇の巨艦化がよく分かります。

横須賀港周辺の絵図

明治12(1879)年から明治39(1906)年まで刊行された当時の観光マップ。「横須賀港一覽繪圖」「横須賀明細式覽圖」など現在9版が確認されています。



(明治28年版、個人蔵)



米海軍横須賀基地C1建物(旧横須賀鎮守府庁舎)

第一海軍区を管轄した横須賀鎮守府の庁舎。関東大震災で被災したれんが造りの庁舎に代わり、鉄骨造りの2代目庁舎が大正15(1926)年に建設されました。海軍の技術力を証明する当時日本最新の耐震建築で、現在は在日米海軍司令部庁舎として活用されています。



米海軍横須賀基地C2建物 (旧横須賀鎮守府會議所・横須賀海軍艦船部庁舎)

昭和9(1934)年に建造された鉄骨造り2階建ての横須賀鎮守府の施設。関東大震災後の建築ながら装飾性に富み、当時の海軍の威信を感じます。現在は米海軍が利用していますが、正面入口には今も「横須賀鎮守府會議所」「横須賀海軍艦船部」の表札が残っています。

東京湾要塞

明治期から太平洋戦争時にかけて帝都東京と横須賀軍港を防衛する要塞が各地に設置されました。横須賀には東京湾要塞を構成する多数の砲台跡が残されています。各砲台は切り石やれんがの積み方、コンクリート使用の有無などの違いがあり、当時の建築技術の推移がうかがえます。



さるしま 猿島砲台跡 ※国指定史跡

東京湾に浮かぶ唯一の自然島「猿島」に造られた砲台跡。明治14(1881)年に着工した、れんが造りの貴重な歴史遺産で、弾薬庫、兵舎など数々の遺構が残っています。



ちよがさき 千代ヶ崎砲台跡 ※国指定史跡

ペリー来航で知られる浦賀港の入口に造られた砲台。明治25(1892)年に着工した東京湾要塞の中でも最新鋭の設備をもつ砲台で、石とれんがとコンクリートで造られているのが特徴です。



かんのんざき 観音崎砲台跡

明治13(1880)年に着工した西洋の築城技術による日本最初期の砲台。観音崎灯台のある観音崎公園一帯は、その後も次々と砲台が建造され、多数の砲台が並ぶ要塞地帯となりました。



はしりみず 走水低砲台跡

観音崎、猿島に続いて明治18(1885)年に着工した砲台。砲座、左翼の観測所、兵舎、弾薬庫などが残っており、明治期の要塞の様子がよく分かる施設です。

かいほう 東京湾第三海堡構造物 ※市有形文化財

明治から大正にかけて東京湾口を防備する3つの海堡(人口島)が建造されました。大正10(1921)年に完成した第三海堡は、莫大な費用(現在の約140億円)を投じて建造されたものの関東大震災で水没。その遺構が引き上げられ横須賀市内2ヶ所で展示されています。うみかぜ公園に展示されている大型兵舎は、当時の最先端技術だった鉄筋コンクリート造りです。



Column 1
インフラ

鎮守府から始まった 近代的なインフラ整備



はしりみず 走水水源地
れんが 煉瓦造貯水池
※国登録有形文化財

明治9(1876)年、横須賀造船所のためにフランス人技術者ヴェルニーの指揮のもと築造された水源地。その後、第一期拡張工事を開始し、明治35(1902)年に煉瓦造貯水池が完成しました。同41年には市内に給水を開始して横須賀市営水道が始まり、今でも1日1,000m³の供給能力があり、市内唯一の水源地として災害時の応急給水拠点の機能も備えています。



へみ 逸見浄水場
※国登録有形文化財

日露戦争後、軍備拡張に伴い走水水源地だけでは水量が不足。新しい水源を求めた海軍が明治45(1912)年に工事に着手し大正10(1921)年に完成した浄水場です。軍港を見下ろす丘の上にあり、鉄筋コンクリート造りの配水池入口は白亜の塔として往時の姿を伝えます。(名称は登録時申請のもの)

写真提供：横須賀市上下水道局

鎮守府にとって最重要課題の一つは近代的なインフラの整備でした。国内でもいち早く大規模な水道建設を行なった四市には、壮大な規模の貯水池や堰堤が今も多く残っており、艦艇への給水や工業用水としてどれほど水が重要であったかを証明しています。

横須賀では、横須賀造船所のためにフランス人技術者ヴェルニーの指揮のもと明治9(1876)年に走水水源地を築造。大正10(1921)年に逸見浄水場が完成し、2系統の水道が確立しました。

呉では、鎮守府開庁の翌年に全国で3番目の早さで近代的な水道施設が開設。大正7(1918)年には、当時東洋一の規模を誇った本庄水源地の巨大な堰堤が完成しました。



二河水源地取入口(呉市)

地形的に水の確保が難しい佐世保では、本水源確保のための懸命な努力により、明治33(1900)年に岡本水源地、明治41(1908)年には山ノ田水源地が完成。これらの水道施設によって、



舞鶴市水道施設岸谷貯水池(舞鶴市)

市民も水道管による安全な給水を受けられるようになりました。

舞鶴では、鎮守府開庁に向けて水道建設が始まり、明治34(1901)年に給水を開始。当時の最新技術だった石張りコンクリート造りの桂貯水池や、大

正期では最も高いアース式堰堤の岸谷貯水池などの関連施設は、近代水道技術史上においても非常に高い価値を持っています。

また、四市は海路の利便性とは裏腹に陸路には難があったため、鎮守府の開庁に伴い、トンネルや鉄橋を建設して鉄道を敷設し、陸上交通も整備しました。



七釜トンネル(横須賀市)

横須賀では、明治22(1889)年に軍事上の重要性から陸海軍の要請を受け、横須賀～大船間の横須賀線が開業しました。呉では、軍都広島と軍港呉を結ぶ必要性から明治36(1903)年に呉線が開業。佐世保では明治31(1898)年に佐世保線が全線開業し、東京の新橋を起点とした日本の鉄道網は本土最西端の佐世保まで到達しました。



清水の瀬橋梁(佐世保市)

舞鶴では、日露開戦に備えた緊急敷設路線として福知山～新舞鶴間の官設舞鶴線の建設に着手、開戦後の明治37(1904)年に完成しました。同線のトンネル、橋梁などの施設は現在も使用されています。

煙を吐いて疾走する蒸気機関車は人々に近代化を強く印象づけるものでした。鎮守府開庁に端を発した都市基盤の整備は、市民の暮らしも急速に便利にしていったのです。

横須賀市の構成文化財

○見学可／△限定見学可（日時指定・要事前予約等）／□外観のみ見学可／×非公開・一般立入禁止

名称	指定等の状況	公開/非公開	所在地
1 米海軍横須賀基地C1建物 (旧横須賀鎮守府庁舎)	-	×	横須賀市泊町
2 米海軍横須賀基地C2建物 (旧横須賀鎮守府会議所・横須賀海軍艦船部庁舎)	-	×	横須賀市泊町
3 米海軍横須賀基地B39建物 (旧横須賀海軍工廠庁舎)	-	×	横須賀市泊町
4 海上自衛隊横須賀地方総監部田戸台分庁舎 (旧横須賀鎮守府司令長官官舎)	-	△	横須賀市田戸台 90
5 逸見波止場衛門	-	○	横須賀市汐入町 1-1 (ヴェルニー公園)
6 東京湾要塞跡			
猿島砲台跡	国史跡	○	横須賀市猿島
千代ヶ崎砲台跡	国史跡	△	横須賀市西浦賀
7 観音崎・走水地区の砲台群			
観音崎砲台跡	-	○	横須賀市走水 (県立観音崎公園)
三軒家砲台跡	-	○	横須賀市走水 (県立観音崎公園)
走水低砲台跡	-	△	横須賀市走水 (旗山崎公園)
8 東京湾第三海堡構造物	市有形	□ △	横須賀市平成町(うみかぜ公園) 横須賀市夏島町(夏島都市緑地)
9 「ヨコスカ製鉄所」「ヨコスカ造船所」刻印れんが	-	○	横須賀市深田台 95 (横須賀市自然・人文博物館)
10 スチームハンマー (旧横須賀製鉄所設置) 1865年オランダ製0.5トン片持型・3トン門型	国重文	○	横須賀市東逸見町 1-1 (ヴェルニー記念館)
11 米海軍横須賀基地ドライドック1～6号 (旧横須賀製鉄所・造船所・海軍工廠第一～第六号船渠)	-	×	横須賀市泊町
12 近代造船所建築図面資料230点	市有形	○ (一部)	横須賀市深田台 95 (横須賀市自然・人文博物館)
13 走水水源地 (煉瓦造貯水池、鉄筋コンクリート造浄水池)	国登録	□	横須賀市走水 1-2-1
14 逸見浄水場 (緩速ろ過池調整室 4 棟、配水池入口 2 棟、ベンチュリーメーター室)	国登録	×	横須賀市西逸見町 2-10
15 七釜トンネル	-	□	横須賀市田浦町・田浦港町
16 横須賀港周辺の絵図	-	△	横須賀市深田台 95 (横須賀市自然・人文博物館)



スチームハンマー (旧横須賀製鉄所設置)
1865年オランダ製0.5トン片持型



走水水源地、鉄筋コンクリート造浄水池
(写真提供：横須賀市上下水道局)

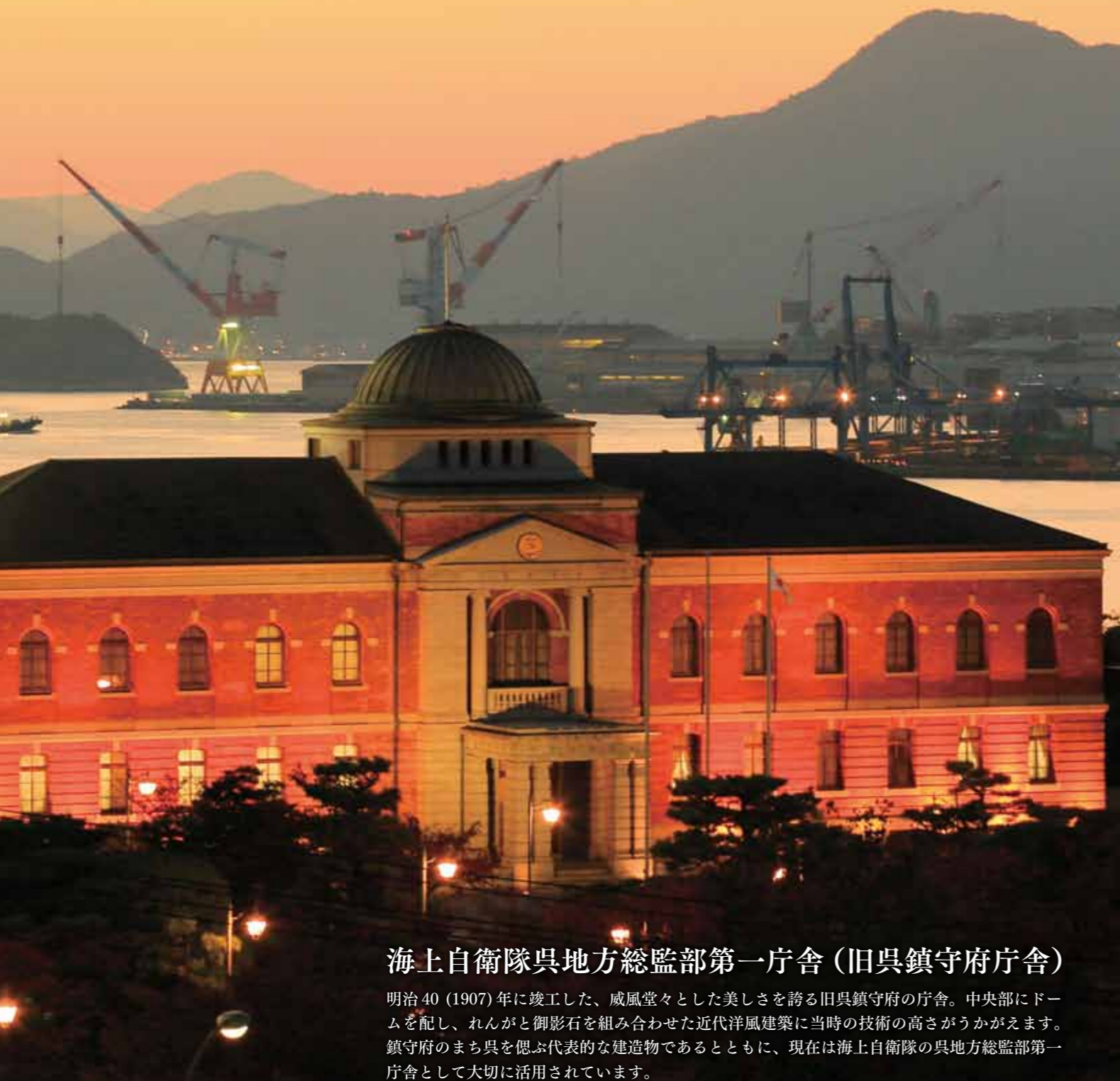


逸見浄水場、ベンチュリーメーター室
(写真提供：横須賀市上下水道局)



呉 -Kure-

山と島々に囲まれた広島県南西部のまち、呉。明治22(1889)年に呉鎮守府が開庁し、「海軍第一の製造所」と位置づけられると、全国から多くの技術者が集められました。東洋一の軍港として栄えた呉は、世界最大の戦艦「大和」建造の地としても知られ、造船を中心とした高い技術は「ものづくりのまち」に今も脈々と息づいています。



海上自衛隊呉地方総監部第一庁舎(旧呉鎮守府庁舎)

明治40(1907)年に竣工した、威風堂々とした美しさを誇る旧呉鎮守府の庁舎。中央部にドームを配し、れんがと御影石を組み合わせた近代洋風建築に当時の技術の高さがうかがえます。鎮守府のまち呉を偲ぶ代表的な建造物であるとともに、現在は海上自衛隊の呉地方総監部第一庁舎として大切に活用されています。



旧呉鎮守府司令長官官舎

※国指定重要文化財

明治38(1905)年に再建された二代目官舎。横須賀鎮守府司令長官官舎と同じく櫻井小太郎の設計による和洋折衷様式の瀟洒な建物です。和館部は呉鎮守府司令長官と家族の住居として使用され、来客用の洋館部の内壁には稀少な金唐紙が絢爛豪華に用いられていました。



洋館客室壁の金唐紙



洋館客室

旧東郷家住宅離れ

※国登録有形文化財

呉鎮守府参謀長として赴任していた東郷平八郎が、明治23(1890)年から1年8ヶ月の間、居住していた邸宅の離れ座敷。昭和55(1980)年に入船山公園内に移築されました。



旧呉海軍工廠塔時計

※市有形文化財

大正10(1921)年に旧呉海軍工廠造機部の屋上に設置され、終戦まで工廠とともに時を刻んだ高さ約10mの塔時計。現在も動いている電動親子式衝動時計としては国産最古と言われる貴重な存在です。

アレイからすこじま（旧呉海軍工廠本部前護岸及び関連施設）

国内で唯一、海上自衛隊の潜水艦を間近で見られる公園。魚雷積載用クレーンや旧呉海軍工廠のれんが倉庫が周囲に残っており、鎮守府時代の往時の面影を感じることができます。



呉



魚雷積載用クレーン

明治34（1901）年に設置された、魚雷の積み降ろしに利用されたイギリス製15トンクレーン。アレイからすこじまの南端に当時の姿のまま保存されています。



旧呉海軍工廠本部前護岸

明治28（1895）年に築かれた約300mにも及ぶ花崗岩の切石積の護岸。波の浸食に耐えられるよう巧みに加工された石階段、切石に繋ぎ止め金具が打たれた平らな棧橋など、当時の高い土木技術は一見の価値があります。



昭和町れんが倉庫群

明治30年代に建設され、製品置き場や大砲庫、弾薬庫として使用されていました。空襲により一部が損壊したものの、戦後は国から購入した民間企業が修理し、現在も倉庫として活用しています。



旧呉海軍工廠海軍技手養成所跡と周辺の海軍遺構

アレイからすこじま東隣の山沿いには「ものづくりのまち呉」の礎を築いた「技手」と呼ばれる優秀な技術者を養成した施設がありました。その歴史を伝える記念碑のほか周辺には防空監視所跡、トーチカ（コンクリート製の防陣地）など貴重な遺構が点在しています。





ジャパンマリンユナイテッド(株) 呉事業所



**ジャパンマリンユナイテッド(株) 呉事業所
大屋根
(旧呉海軍工廠造船部造船船渠大屋根)**

艦艇の大型化に伴い築造された新造艦専用の造船船渠(ドック)。船渠は埋められましたが、戦艦「大和」建造時の大屋根が現存し、歴史の見える丘から眺めることができます。



歴史の見える丘

昭和57(1982)年に整備された呉のまちを一望できる公園。園内には、「大和」建造ドックの石を利用してつくられた「憶戦艦大和之塔」などが立つほか、眼下には呉鎮守府庁舎、造船工場、戦艦「大和」を建造したドックの大屋根などが広がり、呉の歴史を肌で感じることができます。



**呉市海事歴史科学館
(大和ミュージアム)**

日本近代化そのものといえる呉の歴史を伝える博物館。近代日本の造船技術の進化と技術力の高さを物語る貴重な資料が展示され、呉で建造された世界最大の戦艦「大和」の10分の1模型をはじめ、零式艦上戦闘機、人間魚雷「回天」などの大型資料も間近で見ることができます。

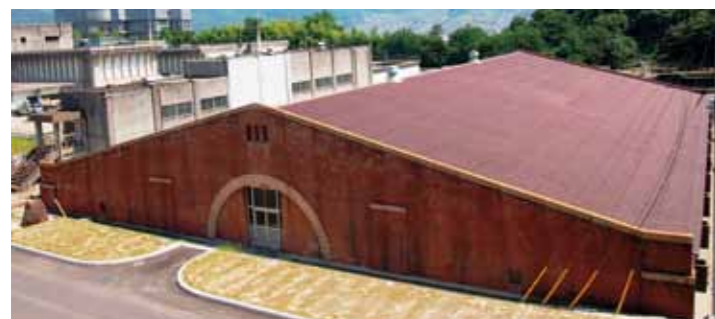


ほんじょう えんてい
本庄水源地堰堤水道施設 ※国指定重要文化財

呉鎮守府水道の貯水池として大正7(1918)年に完成した堰堤(小規模のダム)。長さ97m、高さ25m、総貯水量196万㎡の重力式コンクリート造りで、完成当時は東洋一の規模を誇りました。歴史的・芸術的な価値が高い美しい堰堤をはじめ、丸井戸や階段などの施設は、平成11(1999)年に稼働中の水道施設としては全国初の国重要文化財に指定されました。

ていけいはいすいち
宮原浄水場低区配水池 ※国登録有形文化財

呉鎮守府に配水するために建造された水道施設。明治23(1890)年に築造され、れんが造りの配水池としては日本最古のものと言われる貴重な施設です。



にこう
二河水源地取入口 ※国登録有形文化財

明治22(1889)年に完成した軍港水道施設。横浜、函館に次ぐ日本で3番目の歴史を誇る国内最初期の貴重な水道施設で、国登録有形文化財に指定されています。

Column 2
日本一

鎮守府にまつわる日本一・日本初

西欧の先端技術を導入し、その技術を高め合うことで発展した鎮守府のまちは、日本一、日本初、日本唯一と呼ばれる多くのものを生み出し、日本の近代化を推進しました。

横須賀では、嘉永6(1853)年の黒船来航をきっかけに**日本初の造船所**「横須賀製鉄所」が開設。明治17(1884)年の鎮守府開庁後は「横須賀海軍工廠」と名を変え、西欧から最新の造船機器を導入し、鉄製部品から建築用れんがに至るまで、すべて同製鉄所で生産する体制を整えました。また、**日本最古の西洋式の石造りドック**である1号ドックはフランス人による建設でしたが、3号(現2号)ドックは日本人技術者が初めて建設しました。



米海軍横須賀基地1~3号ドック

「海軍第一の製造所」と位置づけられた呉では、日本海軍の象徴と呼ばれた戦艦「長門」や航空母艦「赤城」など多数の主力艦が建造されました。当時の



呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)

最高技術を結集し極秘裏に建造された**史上最大最強の戦艦「大和」**は、全長263m、幅38.9m、基準排水量65,000トンを誇り、最大射程距離42kmの46cm主砲を9門も備えた、日本の近代技術の集大成でした。「**日本一の海軍工廠のまち**」として栄えた呉は、戦後も世界最大級のタンカーを数多く建造するなど、日本が世界有数の造船国

へと発展する一翼を担いました。

鎮守府設置によって急速に発展したもののといえば、鉄筋コンクリート造りの技術です。その「実験と実践の場」として考えられた**佐世保**では、**日本初の鉄筋コンクリート造りの建造物**

「佐世保海軍工廠第三船渠(せんきょ) 脚筒所及び汽(き) 罐室(かんじつ)」をはじめ、旧佐世保



旧佐世保無線電信所(針尾送信所)施設

海軍工廠ドック、凱旋記念館、前畑1号倉庫など建造物を数多く建築。その到達点が、長波通信施設「針尾送信所」でした。大正11(1922)年に建設された高さ136mを誇る3本の巨大な電波塔は、自立式電波塔として古さ・高さともに**日本一のコンクリートタワー**として知られています。

大型船が停泊できる港は、戦後は引揚港としても活用されました。第二次世界大戦が終結しても海外には約660万人もの日本人が残されていたため、政府はこれらの人々を速やかに帰国させる



舞鶴引揚記念館

べく国内18港の引揚港を指定しました。**舞鶴**は昭和25(1950)年以降、**日本唯一の引揚港**として13年間

に渡り約66万人の引揚者と16,269柱の遺骨を受け入れました。そして、引き揚げの史実と平和への願いを後世に伝えるために貴重な資料を多数展示した「舞鶴引揚記念館」を設立。570点もの資料が**ユネスコ世界記憶遺産**に登録されています。

呉市の構成文化財

○見学可 / △限定見学可 (日時指定・要事前予約等) / □外観のみ見学可 (敷地外から) / ×非公開・一般立入禁止

名称	指定等の状況	公開 / 非公開	所在地
1 旧呉鎮守府司令長官官舎	国重文	○	呉市幸町 4-6(入船山記念館)
2 旧東郷家住宅離れ	国登録	○	呉市幸町 4-6(入船山記念館)
3 海上自衛隊呉地方総監部第一庁舎(旧呉鎮守府庁舎)及び地区内のれんが建物群	-	△	呉市幸町 8
4 二河水源地取入口	国登録	○	呉市荘山田村(二河峡隧道付近)
5 本庄水源地堰堤水道施設	国重文	△	呉市焼山北 3丁目
6 宮原浄水場低区配水池	国登録	□	呉市青山町 5-2
7 アレイからすこじま (旧呉海軍工廠本部前護岸及び関連施設)	-	○	呉市昭和町
8 旧呉海軍工廠塔時計	市有形	○	呉市幸町 4-6(入船山記念館)
9 昭和町れんが倉庫群 (株)ダイクレ呉第二工場亜鉛メッキ工場 呉貿倉庫運輸(株) 8号倉庫ほか	- - -	□ □	呉市昭和町 7-10 呉市昭和町 6
10 旧高鳥砲台火薬庫	国登録	○	呉市幸町 4-6(入船山記念館)
11 呉湾(広湾)を守る砲台群 高鳥砲台跡 大空山砲台跡	- - -	○ ○	呉市警固屋町(首戸の瀬戸公園) 呉市阿賀町・広町
12 呉軍港全図(複製)	-	○	呉市幸町 4-6(入船山記念館)
13 ジャパンマリンユナイテッド(株)呉事業所大屋根 (旧呉海軍工廠造船部造船渠大屋根)	-	□	呉市昭和町 2-1
14 呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)の所蔵資料	-	○	呉市宝町 5-20
15 旧呉海軍工廠海軍技手養成所跡と周辺の海軍遺構	-	□	呉市坪内町 1
16 長迫公園(旧海軍墓地)	-	○	呉市上長迫町 7
17 歴史の見える丘	-	○	呉市宮原 5丁目



高鳥砲台跡



大空山砲台跡



長迫公園(旧海軍墓地)





佐世保 -Sasebo-

日本本土の最西端に位置する佐世保市は、大小の島々が複雑に織りなす多島海と、港を囲む3方の小高い山々に囲まれた、美しい自然に恵まれた港まち。明治22(1889)年に鎮守府が開庁すると、近代的な軍港都市として急激に発展を遂げ、戦後はアメリカ文化が混在する異国情緒漂う港まちとして賑わっています。

3号基内部



旧佐世保無線電信所(針尾送信所)施設

※国指定重要文化財

大正11(1922)年に建設された日本に残る唯一の長波通信施設。高さ136mを誇る3本の巨大な電波塔は、れんが造りに代わる最先端技術として佐世保で発展した鉄筋コンクリート造りの到達点であり、近代建築の金字塔でした。太平洋戦争開戦を告げる「ニイタカヤマノボレ1208」の電信を発したとも伝えられる日本最古にして、最大のコンクリートタワーです。



旧佐世保無線電信所電信室



佐世保重工業(株)

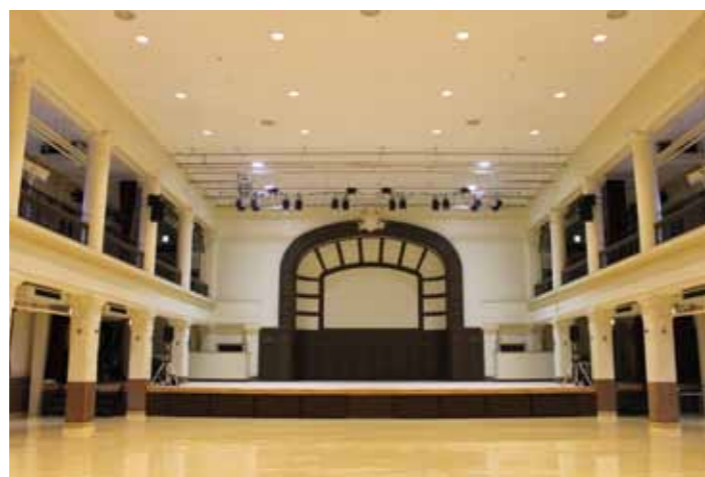
250トンクレーン ※国登録有形文化財

イギリスから輸入され、大正2(1913)年に完成した巨大クレーン。高さは62m、カンチレバー部(回転部分)の長さは81mに及びます。世界最大級の揚重能力を誇り、海軍工廠の主力クレーンとして活躍。今も現役で稼働しており、佐世保のランドマークのひとつです。



**旧佐世保鎮守府凱旋記念館
(佐世保市民文化ホール) ※国登録有形文化財**

第一次世界大戦の凱旋記念館として大正12(1923)年に建てられた建造物。外壁にはれんが、内部列柱には鉄筋コンクリートが用いられた古典主義的デザインの外観が特徴です。旧海軍の催事が催され、戦後は米軍のダンスホールや映画館として利用されていました。



**西九州倉庫(株)
前畑1号倉庫
(旧第五水雷庫)**

魚雷の格納庫として建造された、桁行が183mにも及ぶ佐世保最大の倉庫。佐世保で発展した鉄筋コンクリート技術の成熟によって建築が可能となった超巨大建造物です。大正10年代、佐世保鎮守府ではこのような石造り風の建造物が数多く建設されていました。



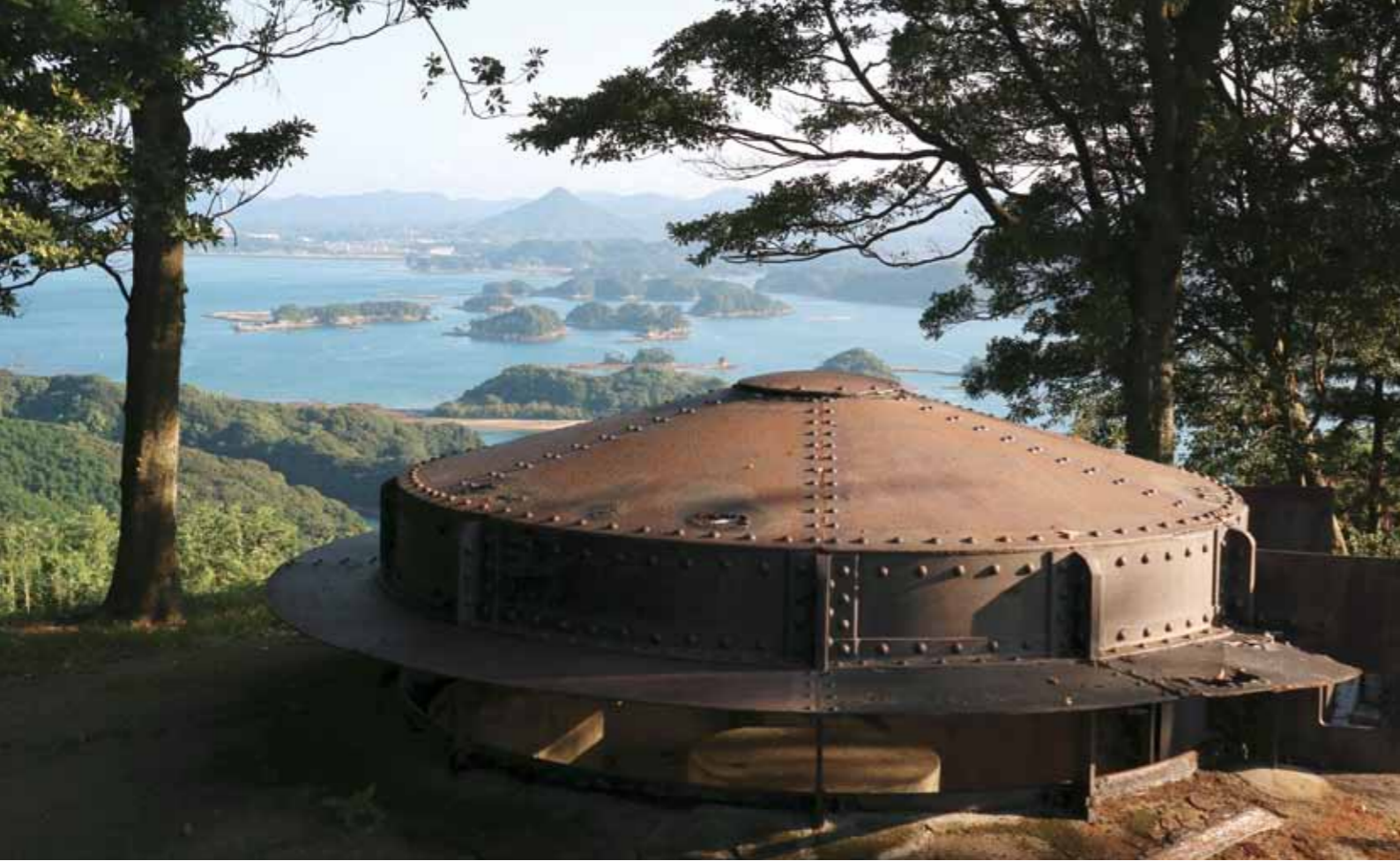
佐世保重工業(株)第5、第6ドック

佐世保海軍工廠の施設を引き継いだ造船所。第5ドック(旧第一船渠、右)での火山灰を混入した対海水コンクリート開発、第6ドック(旧第三船渠、左)における鉄筋コンクリート建造物への応用など、佐世保で発展したコンクリート技術の熟成期に重要な役割を果たしました。

**たてがみ
立神係船池(旧修理艦船繫留場)**

明治39(1906)年に着工し11年を費やして完成した、幅576m、奥行き363mの係船池。コンクリート技術の発展により常に海水に触れる場所に大々的にコンクリートを使用した最初の施設で、佐世保港の地形を大きく変える海軍最大規模の土木工事が行われました。





丸出山堡壘観測所跡



小首堡壘跡

佐世保要塞及び 関連施設

明治30(1897)年から軍港防備のために佐世保港や市街地を取り巻くように市内5ヶ所の小高い山々に陸軍砲台が建設されました。明治34(1901)年に完成した俵ヶ浦町の「丸出山堡壘」には、全国的にも珍しい観測所が今も残されています。



田島岳高射砲台跡

海軍防備隊、 警備隊砲台群

軍港防備のために建設された砲台群。航空機の登場や技術の進展に合わせて砲台の装備も移り変わっていきました。佐世保港や市街地、九十九島などが一望できる絶景スポット「弓張岳展望台」の周辺にも「田島岳高射砲台跡」が残されています。



れんが 平瀬煉瓦倉庫群 立神煉瓦倉庫群

艦隊への補給という佐世保鎮守府の役割を象徴する倉庫群。平瀬地区には食糧品や衣類、立神地区には兵器類が保管され、れんが造りから鉄骨れんが造りに移行する技術の発展過程が見られます。立神煉瓦倉庫群の一つは、市民の音楽練習場として活用されています。

立神煉瓦倉庫群



立神音楽室(旧弾薬包庫)



平瀬煉瓦倉庫群

むきゅうどう 無窮洞

昭和18(1943)年、第二次世界大戦の最中に教師と小学生たちが掘った巨大な防空壕。内部には避難中でも授業や生活ができるように教壇が設けられているほか、トイレや炊事場、食料倉庫などが作られています。実際に全校生徒約600人が避難したこともありました。





岡本水源地

日露戦争に備えて明治33(1900)年に完成した水道施設。当時国内における水道の第一人者であった工学博士・吉村長策が設計しました。この水源地の完成によって市民も手桶単位ではありましたが、浄水を利用できるようになりました。

山ノ田水源地

佐世保鎮守府と市民の水不足を解消し、さらに衛生環境を改善するため、明治41(1908)年に完成した水道施設。この施設も吉村長策の設計です。山ノ田水源地の完成によって、市民も水道管による安全な給水を受けることができるようになりました。



佐世保市水道局水道施設群・菰田貯水池堰堤

昭和15(1940)年に佐世保市が初めて完成させた水道用ダム。海軍水道からの独立を果たし、取水から配水まで佐世保市が一貫して運用することとなった記念すべき貯水施設です。



Column 3 艦艇

4つの鎮守府の特徴と 建造された艦艇

資料提供：大和ミュージアム

明治期に近代国家を目指した日本が鎮守府を置いた四市には、それぞれに異なる目的や役割があり、各海軍工廠で建造された艦艇にも違いがありました。

横須賀は、鎮守府が置かれる以前から幕府の造船所が設置されていた点で他の軍港とは出発点が異なりました。嘉永6(1853)年のペリー来航によって海上防衛の必要性に迫られた江戸幕府は、外国の軍艦船の購入を進めます。横須賀海軍工廠の前身である横須賀製鉄所は、それらの艦船の修繕や新たな艦船の建造を行っていました。

明治17(1884)年、横須賀に鎮守府が置かれてからは、横須賀海軍工廠は日本海軍の主力造船所となりました。初の国産軍艦「清輝」や初の国産戦艦「薩摩」など、明治初期の国産軍艦の多くはここで建造されたものです。呉海軍工廠が主力艦造船所として整備された後は、横須賀は航空母艦や巡洋艦の建造に重点を移しました。



清輝

呉は、明治22(1889)年の鎮守府設置当初から主力製造所としての役割を期待されていました。明治27(1894)年に勃発した日清戦争で高い評価を得てからは、建造設備を急速に拡大。第二次世界大戦が終結する昭和20(1945)年まで「海軍第一の製造所」としての大役を担います。呉海



大和

軍工廠は世界最大の戦艦「大和」、連合艦隊の旗艦「長門」、航空巡洋艦「最上」など、戦艦、航空母艦、巡洋艦といった主力艦の建造を主に行いました。

呉と同年に鎮守府を開庁した佐世保は、朝鮮半島や中国大陸に近く、鎮守府開庁後すぐに始まった日清戦争やロシアとの緊迫した情勢を背景に、前線基地と位置づけられ整備が進められました。主に艦隊への補給基地としての役割を期待されており、佐世保海軍工廠は軽巡洋艦や駆逐艦、潜水艦などの補助艦艇の建造を中心に、艦艇の修理や改造も多く手掛けていました。戦時中主要な作戦に参加し、ほぼ無傷で生還した奇跡の駆逐艦「雪風」を建造したことで知られます。



雪風

舞鶴は、対ロシア防衛を想定した軍港としての役割が期待され、日本海側で唯一の鎮守府が設置されました。舞鶴海軍工廠は駆逐艦や水雷艇などの小型艦艇や水中兵器の製造を特色とする工場として発達し、ここで建造された駆逐艦「島風」とその名を受け継いだ二代目「島風」はいずれも当時の世界最速を記録しました。市内には「富士」「八島」「敷島」「朝日」「初瀬」「三笠」など日露戦争前の軍艦の名前を冠した街路が並び、軍港のまちの歴史を今に伝えています。



島風

佐世保市の構成文化財

○見学可 / △限定見学可 (日時指定・要事前予約等) / □外観のみ見学可 / ×非公開・一般立入禁止

名称	指定等の状況	公開 / 非公開	所在地
1 旧佐世保無線電信所(針尾送信所)施設	国重文	○	佐世保市針尾中町 382
2 旧佐世保鎮守府凱旋記念館 (佐世保市民文化ホール)	国登録	○	佐世保市平瀬町 2
3 西九州倉庫(株)前畑 1号倉庫(旧第五水雷庫)	-	□	佐世保市干尽町
4 岡本水源地	-	×	佐世保市十文野町
5 山ノ田水源地	-	×	佐世保市桜木町
6 立神係船池(旧修理艦船繋留場)	-	□	佐世保市立神町
7 佐世保重工業(株)250トンクレーン	国登録	□	佐世保市立神町
8 佐世保重工業(株)第5、第6ドック	-	×	佐世保市立神町
9 赤崎貯油所旧地下重油槽	-	□	佐世保市赤崎町
10 庵崎貯油所地下重油槽	-	×	佐世保市庵浦町
11 佐世保要塞及び関連施設			
旧佐世保要塞砲兵連隊跡	-	□	佐世保市万徳町
旧佐世保弾薬本庫	-	□	佐世保市須佐町
丸出山堡壘跡・観測所跡	-	○	佐世保市俵ヶ浦町
俵ヶ浦弾薬本庫	-	×	佐世保市俵ヶ浦町
馬川兵舎跡・演習砲台跡	-	×	佐世保市俵ヶ浦町
小首堡壘跡・地区司令部跡	-	△	佐世保市俵ヶ浦町
高後崎砲台跡	-	×	佐世保市俵ヶ浦町
12 平瀬煉瓦倉庫群	-	□	佐世保市平瀬町
13 立神煉瓦倉庫群	-	□	佐世保市立神町
14 前畑火薬庫	-	□	佐世保市前畑町
15 南風崎トンネル	-	○	佐世保市南風崎町
16 清水の瀬橋梁	-	○	佐世保市吉福町
17 佐世保鎮守府水道施設群	-	×	佐世保市桜木町ほか
18 佐世保市水道局水道施設群	-	□	佐世保市桜木町ほか
19 干尽倉庫群	-	□	佐世保市干尽町
20 九州旅客鉄道(株)鉄道施設群	-	○	JR 佐世保線沿線
21 松浦鉄道(株)鉄道施設群	-	○	松浦鉄道西九州線沿線
22 海軍防備隊、警備隊砲台群			
田島高射砲台跡	-	○	佐世保市小野町
大崎高射砲台跡	-	○	佐世保市針尾北町
古里高射砲台跡	-	○	佐世保市針尾東町
錐崎高射砲台跡	-	○	佐世保市針尾東町
庵浦高射砲台跡	-	×	佐世保市庵浦町
猫山高射砲台跡	-	×	佐世保市黒髪町
無窮洞	-	○	佐世保市城間町
戸尾市場	-	○	佐世保市戸尾町
23 佐世保重工業(株)佐世保造船所 (旧佐世保海軍工廠)施設群	-	□	佐世保市立神町
24 佐世保鎮守府庁、海兵団関連施設群	-	□	佐世保市平瀬町
25 佐世保鎮守府関連記念碑群	-	○	佐世保市八幡町ほか
26 東山公園(旧海軍墓地)	-	○	佐世保市東山町 182-1
27 吉村長策関連史料群	-	×	佐世保市八幡町 4-8(市水道局)



前畑火薬庫



佐世保鎮守府庁、海兵団関連施設群 (鎮守府庁表門)



佐世保鎮守府水道施設群 (矢岳貯水所)



南風崎トンネル



舞鶴

-Maizuru-

京都府の北東部に位置し、リアス式海岸特有の美しい地形に恵まれた舞鶴は、青い海がすぐ目の前に広がる風光明媚な港まち。日本海側唯一の護りの拠点として明治34(1901)年に鎮守府が開庁してから100年以上が過ぎた現在でも、ノスタルジックな赤れんが倉庫群が、軍港のまちの歴史を今に伝えています。



旧舞鶴鎮守府軍需部倉庫

※国指定重要文化財

明治35(1902)年に需品庫として建築された3連棟の2階建てれんが造り倉庫。倉庫の前には長さ150mもの石とれんがを敷きつめた物品運搬通路が当時の姿のまま残っています。大正期には、需品庫から電機庫や水雷庫に用途変更され、鉄道の引込線が敷設されました。

舞鶴赤れんがパーク ※国指定重要文化財

明治35(1902)年から大正7(1918)年にかけて建造された海軍の赤れんが造りの倉庫。魚形水雷庫として造られた「赤れんが1号棟」(赤れんが博物館)は日本最古級の鉄骨れんが建造物です。大正7(1918)年に第三水雷庫として建設された「赤れんが5号棟」は舞鶴鎮守府最大の倉庫で、蒸気機関車が直接貨物列車を引いて入ることができました。現在は12棟のうち5棟の赤れんが倉庫が整備され「舞鶴赤れんがパーク」として観光エリアになっています。



赤れんが1号棟



赤れんが3号棟



海上自衛隊舞鶴地方総監部会議所（旧舞鶴鎮守府司令長官官舎）

明治34（1901）年に建築された舞鶴鎮守府司令長官の官舎。和洋折衷様式の木造平屋建てで、初代司令長官の東郷平八郎も2年間過ごしました。終戦まで歴代司令長官の官舎として使用され、現在は海上自衛隊に移管され舞鶴地方総監部の会議所となっています。



海上自衛隊舞鶴地方 総監部大講堂 及び 海軍記念館収蔵資料 （旧海軍機関学校大講堂 及び鎮守府関係資料）

昭和39（1964）年に舞鶴地方総監部大講堂の一部を利用し設置された資料館には、初代司令長官の東郷平八郎をはじめ旧海軍に関する貴重な資料200点余りが展示されています。



ジャパンマリンユナイテッド（株）舞鶴 事業所施設（旧舞鶴鎮守府海軍工廠）

舞鶴鎮守府では明治30（1897）年に造船廠用地の開削工事が始まり、同36（1903）年に主要なれんが造りの工場建物が完成し海軍工廠となりました。大正3（1914）年に完成した第二船渠は、最新技術のコンクリート造りの建物で当時の四海軍工廠でも最大級の規模でした。



舞鶴館



第二船渠築造工事（明治45年5月）



艦船名を名付けた 市街地の景観

舞鶴の市街地は鎮守府開庁の翌年の明治35（1902）年に完成。碁盤目状の街路には当時の軍艦など33隻の名が付けられ、市民に親しまれています。

舞鶴市水道施設桂貯水池 (舞鶴旧鎮守府水道施設 桂取水堰堤)

えんてい

※国指定重要文化財

明治33(1900)年に完成した水道施設。明治から大正期にかけての舞鶴鎮守府の水道施設は軍部の建設による最古の本格的な水道施設と言われており、当時の最新技術だった石張りコンクリート造りの桂貯水池の堰堤は水道技術史上においても高い価値を持っています。



きしだに

舞鶴市水道施設岸谷貯水池 (舞鶴旧鎮守府水道施設 岸谷川下流取水堰堤)

※国指定重要文化財

明治38(1905)年、日露戦争により給水量が増大するのに伴い築造した水道施設。大正10(1921)年に軍港拡張の機運が高まり、水源池を増強するために改造。大正期では最も高いアース式堰堤の岸谷貯水池などが築造され、現在も清浄でおいしい水を供給する水源地となっています。

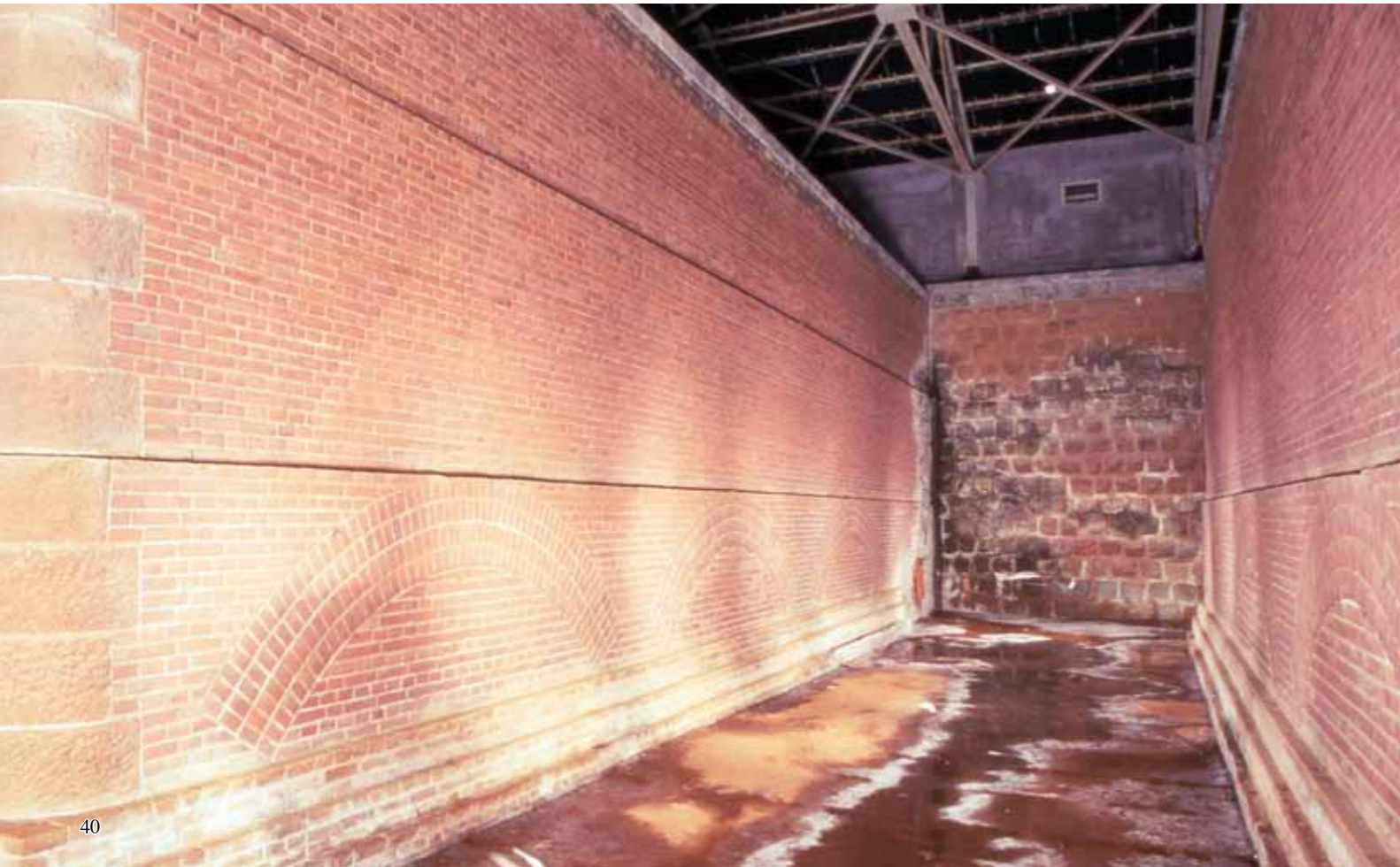


旧北吸浄水場配水池施設 (舞鶴旧鎮守府水道施設)

きたすい

※国指定重要文化財

明治34(1901)年、鎮守府への補給用水を大量に確保するために建設された水道施設。大正15(1926)年に増築された上屋は、鉄骨れんが造りで入口上部にロマネスク風のれんがアーチが施されるなど意匠的にも貴重な建造物です。



旧舞鶴要塞跡

舞鶴要塞は日露戦争を危惧した陸軍が海軍の軍港施設を守るために建設を開始したもので、明治36(1903)年に完成しました。葦谷砲台や横山砲台など、舞鶴湾周辺の6ヶ所の山頂に砲台が設置され、100年以上が過ぎた今でもれんが造りの弾薬庫などが当時の姿を留めています。



あしだに 葦谷砲台跡



※扉と格子は映画撮影に使用されたロケセット

かながさき 金岬砲台跡



まきやま 横山砲台跡





りんよう
神崎煉瓦ホフマン式輪窯
(旧京都竹村丹後製窯所煉瓦窯)

※国登録有形文化財

明治30(1897)年に京都在住の山田宗三郎によって設立。舞鶴軍港建設に必要なれんがを製造しました。当初は登り窯でしたが、大正末期に稼働効率の高いホフマン式輪窯に改造。現在、全国で4基のホフマン窯が残りますが、大小12本もの煙突をもつ窯は他に例がなく貴重です。



みなとじゅうにしや
湊十二社手洗所

隣接するれんが工場の創設者によって明治36(1903)年に奉納された美しいれんが造りの手洗所。柱や角は丸く加工したれんがを使用し、壁には透かしを設けるなど意匠が凝らされています。

京都丹後鉄道宮舞線 由良川橋梁
(旧国鉄峰山線由良川橋梁)

大正13(1924)年に完成したコンクリート・石造り橋脚の鉄橋。京都北部最大の河川である由良川の河口部に架かり長さ約550m、水面からわずか3mの高さを走る列車の姿は壮観です。国鉄峰山線の完成により、舞鶴線・小浜線と合わせて東西南北の鉄道が開通し、舞鶴は近畿北部一の都市となりました。



Column 4
食

海軍ゆかりの食

鎮守府が人々にもたらしたものは、最先端の技術やインフラの整備だけではありません。外国の人々と接する機会の多かった海軍は、映画や音楽などの娯楽をはじめ、食も積極的に西洋文化を取り入れました。当初、海軍の食事は白米中心でしたが、タンパク質やミネラルが不足し、脚気という病気になりやすい問題がありました。その解決策として西洋式の食事を取り入れたことが、日本における洋食の始まりとされています。

明治41(1908)年に海軍が発行した料理の教科書『海軍割烹術参考書』には、100種類を超える西洋料理やお菓子のメニューが載っています。例えば「カレイライス」は、イギリス海軍から伝わった兵食「カレーシチュー」を白米に合うようにアレンジしたものでした。四市は、日本の洋食文化を広めることにも一役買っていたのです。各市では今もカレーをはじめ、海軍発祥・海軍ゆかりのメニューがご当地グルメとして愛されています。

横須賀は「よこすか海軍カレー」。『海軍割烹術参考書』に記載されていた「カレイライス」のレシピ



よこすか海軍カレー

を復元した、素朴な味わいのこだわりのカレーです。小麦粉をごく少量に抑え、野菜とフルーツでトロミをつけた、滑らかな口当たりと上品な甘さが特徴です。

呉は「呉海自カレー」。



呉海自カレー

海軍のカレー文化は、現在の海上自衛隊にも引き継がれています。呉では、海上自衛隊の艦艇で実際に食べられているカレーを忠実に再現しています。認定を受けた30の飲食店で、各艦艇ごとに異なる様々なカレーの味が楽しめます。

佐世保は「海軍さんのビーフシチュー」。



海軍さんのビーフシチュー

フシチューは、日露戦争で活躍した連合艦隊の司令長官・東郷平八郎がイギリス留学時代に食べた味が忘れ

られず、帰国後に日本に伝えたと言われている料理です。佐世保では『海軍割烹術参考書』の「シチュードビーフ」のレシピを元に各飲食店がアレンジしたビーフシチューが堪能できます。

舞鶴は「まいづる肉じゃが」。

今では家庭料理として万人に愛されている肉じゃがも、実は海軍発祥のメニューでした。舞鶴鎮守府の初代司令長官に就任



まいづる肉じゃが

した東郷平八郎がビーフシチューを部下に作らせたところ、ワインもデミグラスソースもなかったため、醤油と砂糖で味つけたのが、肉じゃがのルーツと言われています。『海軍厨業管理教科書』で「甘煮」という名称で紹介されていた「海軍式の肉じゃが」を再現したメニューを市内の各店で楽しめます。また、呉と舞鶴では、肉じゃが発祥の地を巡る論争が繰り返されています。

舞鶴市の構成文化財

○見学可／△限定見学可（日時指定・要事前予約等）／□外観のみ見学可／×非公開・一般立入禁止

名称	指定等の状況	公開/非公開	所在地
1 舞鶴赤れんがパーク 1号棟～5号棟	国重文	○	舞鶴市北吸1039-2
2 旧舞鶴鎮守府軍需部倉庫	国重文	□	舞鶴市北吸
3 海上自衛隊舞鶴補給所 No.2、No.3、No.4、No.17倉庫	-	□	舞鶴市北吸
4 海上自衛隊舞鶴地方総監部会議所 (旧舞鶴鎮守府司令長官官舎)	-	△	舞鶴市余部下
5 ジャパンマリンユナイテッド(株)舞鶴事業所 (旧舞鶴鎮守府海軍工廠)	-	×	舞鶴市余部下1180
6 海上自衛隊舞鶴警備隊正門 (旧舞鶴鎮守府西門)	-	○	舞鶴市浜2018
7 海上自衛隊舞鶴地方総監部大講堂及び海軍記念館収蔵資料 (旧海軍機関学校大講堂及び鎮守府関係資料)	-	△	舞鶴市余部下1190 (海軍記念館)
8 海上自衛隊舞鶴地方総監部第一庁舎及び第四術科学校校舎 (旧海軍機関学校庁舎及び生徒館)	-	×	舞鶴市余部下1190
9 市道北吸・桃山線 北吸トンネル (旧軍港引込線北吸隧道)	国登録	○	舞鶴市浜682
10 旧北吸浄水場配水池施設 (旧舞鶴鎮守府水道施設)	国重文	□	舞鶴市北吸
11-a 舞鶴市水道施設桂貯水池 (旧舞鶴鎮守府水道施設 桂取水堰堤)	国重文	×	舞鶴市与保呂
11-b 舞鶴市水道施設岸谷貯水池 (旧舞鶴鎮守府水道施設 岸谷川下流取水堰堤)	国重文	×	舞鶴市与保呂
12 艦船名を名付けた市街地の景観	-	○	東舞鶴市街地
13 鎮守府周辺の石積護岸	-	○	舞鶴市北吸
14 JR舞鶴線隧道・橋梁施設 (官設舞鶴線隧道・橋梁施設)	-	□	JR舞鶴線沿線
15 JR小浜線施設 松尾寺駅 (旧国鉄小浜線松尾寺停車場)	-	○	JR小浜線 松尾寺駅
16 京都丹後鉄道宮舞線隧道・橋梁施設 由良川橋梁 (旧国鉄峰山線由良川橋梁)	-	□	京都丹後鉄道宮舞線沿線
17 旧岡田橋	府指定	○	舞鶴市岡田由里
18 旧舞鶴要塞	-	○	舞鶴市白杉 (槇山公園)
18 舞鶴市千歳	-	○	舞鶴市千歳
18 舞鶴市白杉	-	○	舞鶴市白杉
18 舞鶴市千歳	-	×	舞鶴市千歳
18 舞鶴市喜多	-	○	舞鶴市喜多
18 舞鶴市吉坂	-	○	舞鶴市吉坂
18 舞鶴市上安久	-	○	舞鶴市上安久
19 神崎煉瓦ホフマン式輪窯及び湊十二社手洗所 (旧京都竹村丹後製所窯煉瓦窯)	国登録	×	舞鶴市西神崎
20 旧市長公舎 (旧海軍北吸乙号官舎)	-	□	舞鶴市浜
21 旧飯野寅吉邸	-	×	舞鶴市余部上
22 「海軍割烹術参考書」	-	×	海上自衛隊 第4術科学校



北吸配水池からの景色



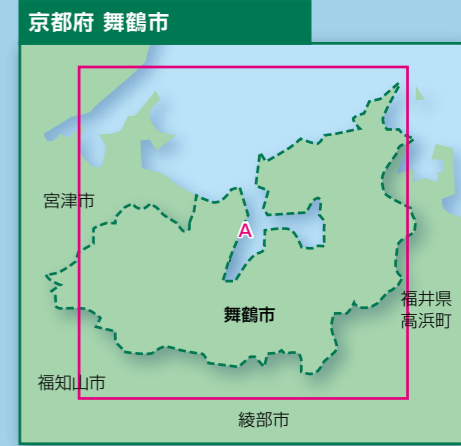
JR小浜線施設 松尾寺駅



海上自衛隊舞鶴補給所



海上自衛隊舞鶴地方総監部大講堂



A

B



旧軍港四市関連年表

元号	西暦	主なできごと
幕 末		
嘉永6	1853	アメリカ艦隊の黒船が来航。
慶応元	1865	■横須賀製鉄所建設。
慶応3	1867	大政奉還
明 治		
明治4	1871	■横須賀製鉄所を横須賀造船所に改称、第一船渠（現在の1号ドック）が完成。
明治8	1875	■初の国産軍艦「清輝」進水。
明治9	1876	横浜に東海鎮守府を設置。 ■走水水源地が完成。
明治10	1877	西南戦争
明治13	1880	■観音崎に砲台の整備を開始。これ以降、猿島、千代ヶ崎等東京湾要塞砲台を整備。
明治17	1884	■横浜の東海鎮守府を横須賀に移し、横須賀鎮守府、開庁。
明治18	1885	内閣制度発足、伊藤博文が初代内閣総理大臣に就任。
明治19	1886	■第二海軍区鎮守府の位置を呉に決定。 ■第三海軍区鎮守府の位置を佐世保に決定。
明治22	1889	大日本帝国憲法、公布。 ■横須賀線（横須賀—大船）が開業。 ■呉鎮守府、開庁。 ■佐世保鎮守府、開庁。 ■第四海軍区鎮守府を舞鶴に設置決定。
明治23	1890	■呉鎮守府水道給水開始。 ■佐世保鎮守府造船部、開業。
明治24	1891	■呉鎮守府造船部第一船渠開渠。
明治27	1894	日清戦争（翌年終戦）
明治31	1898	■佐世保線（佐世保—早岐）が開業。
明治33	1900	■岡本水源地が完成。 ■桂貯水池が完成。
明治34	1901	■舞鶴鎮守府、開庁。 ■北吸浄水場が完成。
明治36	1903	■呉線（呉—海田市）が開業。 組織改編により四鎮守府に海軍工廠を設置。
明治37	1904	日露戦争（翌年終戦） ■舞鶴線（新舞鶴—福知山）が開業。
明治38	1905	■佐世保海軍工廠第三船渠唧筒所及び汽罐室（初の鉄筋コンクリート造り建物）完成。
明治39	1906	■戦艦「薩摩」進水。
明治40	1907	■呉鎮守府庁舎を新たに建設、竣工。
明治41	1908	■山ノ田水源地が完成。
明治42	1909	■市街電車開通。

■…横須賀市 ■…呉市 ■…佐世保市 ■…舞鶴市

元号	西暦	主なできごと
大 正		
大正3	1914	第一次世界大戦、開戦。
大正5	1916	■立神係船池が完成。
大正7	1918	第一次世界大戦、終戦。 ■本庄水源地が完成。余水による市水道給水開始。
大正9	1920	■駆逐艦初代「島風」進水。
大正10	1921	■逸見浄水場が完成。 ■岸谷貯水池が完成。
大正11	1922	ワシントン海軍軍縮条約、批准。保有艦数や新たな艦艇の建造に制限がかかる。 ■旧佐世保無線電信所（針尾送信所）完成。
大正12	1923	関東大震災 ■ワシントン海軍軍縮条約により、舞鶴鎮守府は要港部に格下げ。
昭 和		
昭和3	1928	■海軍技手養成所、開所。
昭和5	1930	ロンドン海軍軍縮条約、批准。
昭和6	1931	満州事変
昭和9	1934	ワシントン海軍軍縮条約、破棄通告。
昭和10	1935	■三呉線（三原—呉）全線開通。
昭和11	1936	ロンドン海軍軍縮条約、失効。
昭和12	1937	日中戦争、開戦。
昭和14	1939	第二次世界大戦、開戦。 ■駆逐艦「雪風」進水。 ■舞鶴鎮守府、復活。
昭和15	1940	■戦艦「大和」進水。
昭和16	1941	太平洋戦争、開戦。
昭和17	1942	■駆逐艦2代目「島風」進水。
昭和20	1945	第二次世界大戦、終戦。 浦賀（横須賀市）・呉・佐世保・舞鶴をはじめ全国に引揚港を指定、引揚者の受入れを開始。
昭和21	1946	日本国憲法、公布。
昭和25	1950	旧軍港市転換法（軍転法）、施行。
昭和27	1952	海上警備隊（現海上自衛隊）発足。
昭和33	1958	■舞鶴港に最後の引揚船が到着。
平 成		
平成28	2016	四市のストーリーが「日本遺産」に認定。



旧軍港四市・日本遺産についてのお問い合わせはこちら

横須賀市

横須賀市経済部 | 観光企画課

TEL:046-822-9577

呉市

呉市企画部 | 企画課

TEL:0823-25-3225

佐世保市

佐世保市観光商工部 | 観光課

TEL:0956-25-9639

舞鶴市

舞鶴市産業振興部 | 観光商業課

TEL:0773-66-1024

※構成文化財の公開状況については事前にお確かめ下さい。



WEB でも日本遺産の情報を発信中！
「平和産業港湾都市 旧軍港4市—横須賀・呉・佐世保・舞鶴」

<http://www.kyugun.jp/>



旧軍港四市シンボルマーク



旧軍港四市についてより詳しく知りたい方へ

- 『新横須賀市史』別編 軍事（横須賀市、2012年）
- 『新横須賀市史』通史編 近現代（横須賀市、2014年）
- 久保木実・富澤喜美枝・中里行雄・山本詔一『横須賀案内記』（横須賀開国史研究会、2007年）
- 『呉市史』第3巻～第8巻（呉市役所、1964～1995年）
- 『呉市制100周年記念版 呉の歴史』（呉市役所、2002年）
- 『佐世保市史』総説篇（佐世保市役所、1955年）
- 『佐世保市史』通史編下巻（佐世保市、2003年）
- 『佐世保市史』軍港史編上巻（佐世保市、2002年）
- 『佐世保市史』軍港史編下巻（佐世保市、2003年）
- 『佐世保の歴史 市制百周年記念』（佐世保市、2002年）
- 『近代佐世保130年の軌跡』（佐世保市教育委員会、2015年）
- 『舞鶴市史』通史編 中（舞鶴市、1978年）
- 『舞鶴市史』通史編 下（舞鶴市、1982年）
- 『舞鶴の近代化遺産』（舞鶴市・舞鶴市教育委員会、2001年初版、2013年改訂）
- 坂根嘉弘編『軍港都市史研究』I 舞鶴編（清文堂出版、2010年）
- 上杉和央編『軍港都市史研究』II 景観編（清文堂出版、2012年）
- 河西英通編『軍港都市史研究』III 呉編（清文堂出版、2014年）
- 上山和雄編『軍港都市史研究』IV 横須賀編（清文堂出版、2017年）